

2019年6月12日

株式会社日立製作所

株式会社日立ビルシステム

昇降機事業のグローバル展開を支える VR 技術を活用したエンジニア教育システムを本格導入 グローバルでデジタル技術の活用を推進し、昇降機業界をリード



VR 技術を活用した教育システム(左:安全体感教育、右:作業教育)

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)と、株式会社日立ビルシステム(取締役社長:関 秀明/以下、日立ビルシステム)は、このたび、昇降機の保全に関わるエンジニア向けに、VR(Virtual Reality)技術を活用した体感型の教育システム(以下、VR 教育システム)を開発し、国内で正式運用を開始しました。今後、教育メニューの拡充と、グローバル展開を順次図るとともに、昇降機事業全体でのデジタル技術の活用を推進し、昇降機業界をリードしていきます。

日立と日立ビルシステムは、昇降機やビル設備の施工・保全などに携わる技術者の教育拠点として、国内の亀有総合センター(東京都足立区)、中華人民共和国(以下、中国)内4カ所のトレーニングセンター、2017年にタイ王国に開設したアジアトレーニングセンターを有しています。各センターでは、昇降機に関する各種の作業教育や、現場で起こりうる危険を実際に体験させることで安全意識の向上を図る安全体感教育など、さまざまな教育を実施していますが、グローバルでの事業拡大とともに、受け入れ人数の増加や教育メニューの拡充による教育拠点の対応能力の飽和や、物理的に各地から教育拠点に集合する非効率性などが課題となっていました。また、安全体感教育においては、実体験できない労働災害を体感できる教育メニューが求められていました。

このような背景のもと、日立は、2018年1月以降、中国内でVR教育システムの運用を開始しましたが、このたび、国内向けのシステムを新たに開発し、2019年4月から正式運用を開始しました。具体的には、昇降路内への転落などの労働災害を疑似的に体感できるコンテンツや、エレベーターの保全作業の基本動作である「かご上への乗降方法」、最重要作業の一つである「ブレーキ分解整備作業」について実機のない環境でも作業手順を学習できるコンテンツなどを開発しました。

今回開発した VR 教育システムは、亀有総合センターで運用を開始し、今後、コンテンツの拡充を図るとともに、多言語化によるアジアトレーニングセンターへの展開、VR ツールの国内外拠点への配布による遠隔教育などを推進し、グローバルでエンジニア教育の高度化と高効率化、教育機会の拡大を実現します。また、保全現場での作業支援や、お客さまへの提案活動などへの VR/AR*技術の活用も検討していきます。

日立と日立ビルシステムは、今後も VR/AR や IoT、AI をはじめとする最先端のデジタル技術を、製品・サービスの開発や人材育成などに幅広く活用し、安全・安心・快適な昇降機や、都市空間におけるお客さまのさまざまな課題解決に貢献するサービスをグローバルに提供し、持続可能な社会の実現に貢献します。

* AR:Augmented Reality(拡張現実)

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社日立ビルシステム カスタマー・サポートセンター

TEL:0120-7838-99(フリーダイヤル)

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
